

平成 24 年 9 月 28 日

三木町長 筒井敏行 殿

三木町百眼百考会議

生きがづくり部会 座長 佐藤 美幸

提 案 書

次のとおり提案します。

記

1 提案する施策の名称

高齢者のとじこもり予防対策

2 提案する施策の内容

三木町民 S O S 電話連絡表（組織図）

三木町民 S O S 電話連絡表（以下「連絡表」という。）を作成し、町内の各世帯に配布する。また、転入者に対しても配布する。

この連絡表には、住民の皆さんが行政などの町内の団体に対する問い合わせ先または困り事の相談先を記載したものである。問い合わせ先等としては、老人会や民生児童委員（以下「民生委員」という。）など団体や組織を掲載するものである。

また、連絡表作成にあたっては検討会を設置することを希望する。

3 現状の課題（提案の目的及び理由）

町内には、役場をはじめ老人会や民生委員など各種団体が多数あるが、問い合わせ先や相談先について一元的に取りまとめたものがないため一般の住民は判りかねている状態である。

また、昨今の現代社会の課題の一つとして、高齢者のとじこもりや孤独死が社会問題化している。このことは、高齢者の社会とのコミュニケーション不足が原因のひとつであることが推察される。また、高齢者の情報不足も指摘されている。

平成 24 年 4 月 1 日現在町内の 65 歳以上の独居老人人口は 706 人であり、10 年前の平成 14 年の 546 人と比較すると 160 人の増加である（参照：表 1 「ひとり暮らし老人の数調べ」三木町社会福祉協議会提供）。

表 1 ひとり暮らし老人の数調べ

各年 4 月 1 日現在調べ

	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
人数（人）	546	549	554	567	551	566	610	630	643	678	706

現在、町としてはひとり暮らし老人に対し、とじこもりや孤独死の予防のために民生委員による家庭訪問を繰り返し行っている。民生委員の仕事は、独居老人対策に限らず幅広い活動を担ってお

り、担当する地区も広く活動に苦勞していることから、民生委員に今まで以上の協力を求めることは困難であると考えられる。

また、情報不足は高齢者だけでなく若年層や転入者に対してもコミュニティに加入するきっかけを逸している要因のひとつと推察される。

4 提案する施策の実施により予想される効果

住民サービスは多種多様であり、住民の興味の対象も多種多様である。情報の迷子になることでコミュニケーションの機会が失われることは、住民にとって不幸なことである。(1)の「連絡表」は、このようなことにならないために、最低限の連絡先を示すことでコミュニティ参加のきっかけづくりに寄与できるものとする。若年層や転入者に対しても、情報源となることが期待されるが、インターネットの利用が困難な高齢者に対し、紙媒体で提供することで、各人の身近には様々な団体があることを示すことができる。このことにより、コミュニケーションの輪の広がりを期待できる。

前述の連絡表は、個人の自発的な行動を促すものです。従来の民生委員の家庭訪問とあわせ「独居老人＝孤独」ではなく社会とのコミュニケーション構築の基礎になるものと期待される。

以上のことから、本部会の提案に係る事業として情報発信を目的とした「連絡表」の作成及び配布により高齢者のとじこもり予防対策に寄与できるものと考え、本提案を提出する。

5 提案する施策の実施に要する費用の額及び内訳

1,770,000円

内訳

(1) 三木町民SOS電話連絡表作成費	(13,000部)	160,000円
(2) 郵送用封筒作成費	(12,000部)	170,000円
(3) 通信費	(12,000通)	1,440,000円
	計	1,770,000円